

令和5年度
第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
評価書

令和6年9月作成
島 田 市

目 次

総合戦略の評価・検証について（P D C Aサイクルの確立）	1
--------------------------------------	---

総合戦略の令和5年度評価・検証結果

総合戦略評価・検証結果（行政による自己評価）

総合戦略全体の評価を踏まえた今後の取組及び方向性	5
--------------------------------	---

基本目標ごとの評価と今後の施策展開

施策の目標及び重要業績評価指標（K P I）の実績値及び評価

【基本目標1】	6
---------------	---

【基本目標2】	8
---------------	---

【基本目標3】	10
---------------	----

【基本目標4】	12
---------------	----

総合戦略評価・検証結果（外部評価）	14
-------------------------	----

【資料】 総合戦略の進捗管理表	15
-----------------------	----

総合戦略の評価区分について	16
---------------------	----

総合戦略達成状況及び評価について	18
------------------------	----

総合戦略達成状況確認表	【基本目標1】	20
-------------	---------------	----

【基本目標2】	24
---------------	----

【基本目標3】	28
---------------	----

【基本目標4】	32
---------------	----

島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について (PDCAサイクルの確立)

1 取組内容

- ・令和2年3月に策定した「第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「第2期総合戦略」という。）」の着実な推進を図るため、重要業績評価指標（KPI）による事業評価、検証を行い、必要に応じて改訂するという一連のサイクルを実施する。（PDCAサイクル）
- ・産官学金労言の代表者で組織している「島田市デジタル田園都市構想市民会議（旧称：島田市まち・ひと・しごと創生市民会議）」や市内金融機関代表者と組織している「島田市デジタル田園都市構想金融機関会議（旧称：島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議）」で外部評価を行い、評価の妥当性、客観性を担保したうえで、施策の見直しや改善を行い、総合戦略の実効性を高めていく。
- ・令和4年12月23日閣議決定の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を受け、令和6年3月、「第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂し、「島田市デジタル田園都市構想総合戦略（以下、「デジ田総合戦略」という。）」を策定した。
- ・第2期総合戦略は令和5年度をもって計画期間終了となったことから、令和5年度評価とは別に4年間の評価として第2期総合戦略の総合評価を行い、必要に応じデジ田総合戦略を改訂する。

2 評価方法

P（プラン）：第2期総合戦略

施策の目標9項目

重要業績評価指標（KPI）38項目

D（計画の実施）：施策、事業の実施

C（評価）：①自己評価

- ・行政（事業所管課等）による評価、分析
- ・島田市デジタル田園都市構想推進本部幹事会
（旧称：島田市まち・ひと・しごと創生推進本部幹事会）
- ・島田市デジタル田園都市構想推進本部
（旧称：島田市まち・ひと・しごと創生推進本部会議）

②外部評価

- ・島田市デジタル田園都市構想市民会議
（旧称：島田市まち・ひと・しごと創生推進本部幹事会）
- ・島田市デジタル田園都市構想金融機関会議
（旧称：島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議）

③議会への評価書の提出（9月）

A（見直し・改定）：評価結果に基づき、次年度施策に反映

3 令和6年度スケジュール

時期	会議等	内容
～6月	事業所管課による自己評価 令和5年度実施事業の評価、K P Iによる検証	
7月9日	推進本部幹事会	自己評価 事業所管課による評価、とりまとめ結果の確認
7月23日	推進本部会議	
8月6日	市民会議	外部評価 行政による自己評価結果の検証
8月19日	金融機関会議	
9月	市議会	自己評価結果、外部評価結果の報告
10月	評価結果の次年度予算、施策等への反映 (事業の重点化・改善、総合戦略の見直し・改訂)	
3月17日	金融機関会議	令和6年における島田市の人口動向について 人口ビジョンについて
3月21日	市民会議	

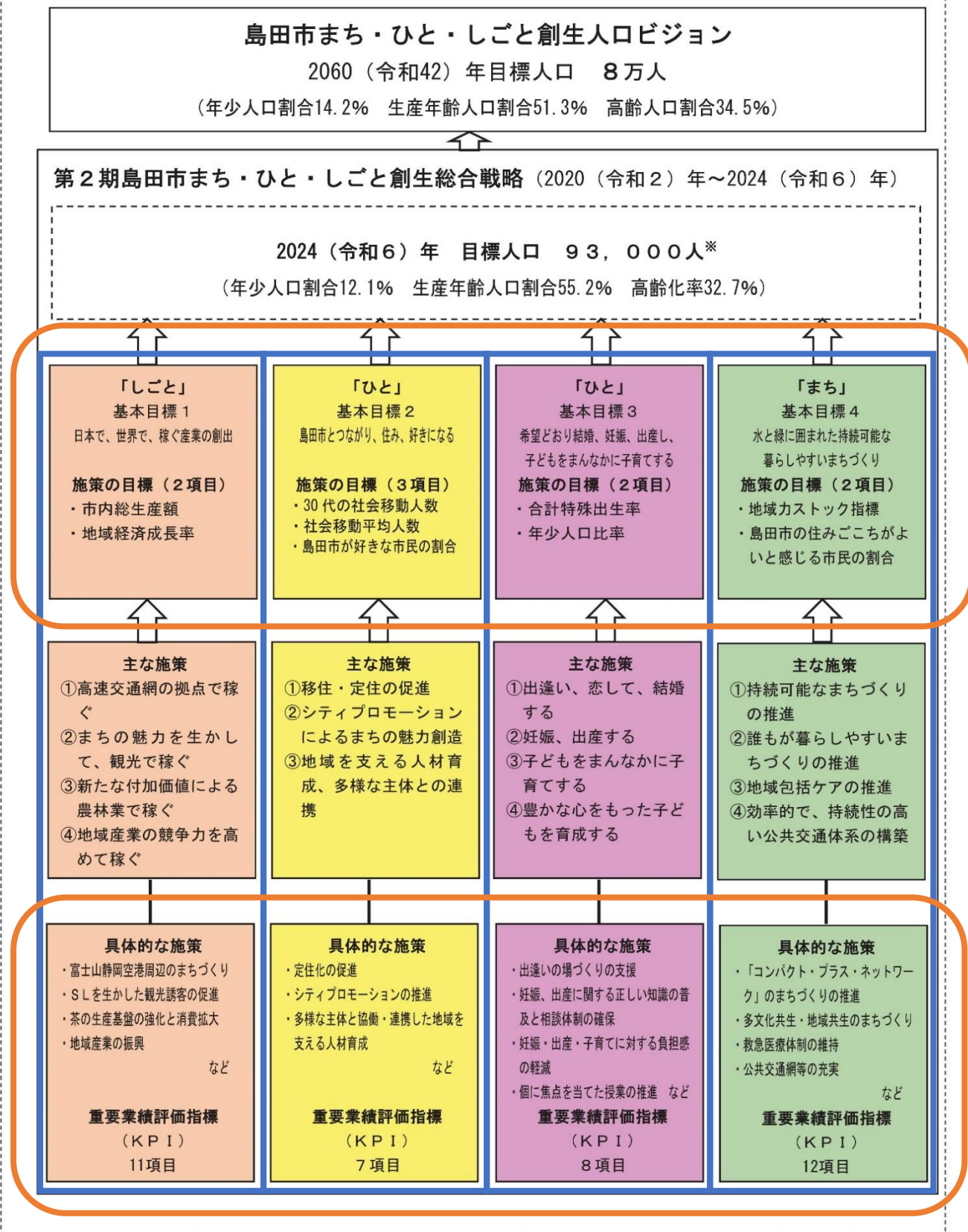
第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和5年度評価・検証結果

①全体の評価

②基本目標ごとの評価

第2期総合戦略 施策の目標、重要業績評価指標（KPI）体系図



※ 国勢調査ベースによる推計値

※ 「第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」より抜粋（P.8）

令和5年度 島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価・検証結果（行政による自己評価）

□総合戦略全体の評価を踏まえた今後の取組み及び方向性

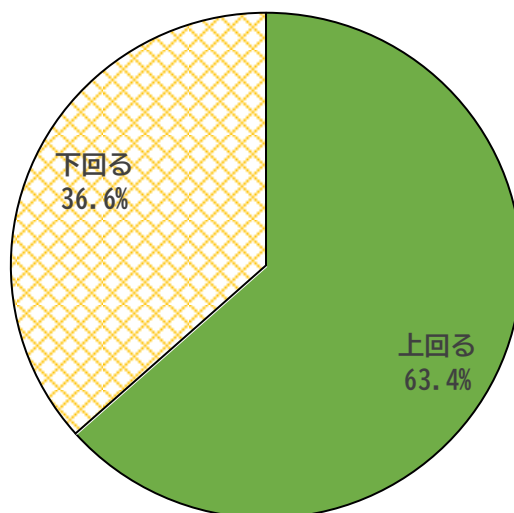
令和5年度は、成果を図るため設定された「施策の目標」及び「重要業績評価指標（KPI）」全47項目中41項目において評価を行い、令和5年度実績値が基準値を上回る項目は26項目（63.4%）であった。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことをうけ、社会活動、経済活動が正常化しつつあり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた多くの項目が、コロナ禍前の基準値を上回る状態まで回復してきた。6割を超える項目において基準値を上回ることができたことは、全体として総合戦略の目標達成に向け着実に推進していると評価できる。

これらのことから、各施策は一定の成果を上げることができたものと評価し、引き続き本市の持つ特性・魅力を生かすとともに、「デジタルの力を生かして 笑顔あふれる安心のまち 島田」を実現するため、デジタル田園都市構想総合戦略における各施策の取組を推進、展開していく。

○基準値に対する令和5年度実績の評価（全体）

上回る	26 項目	（ 63.4% ）
変動なし	0 項目	（ 0.0% ）
下回る	15 項目	（ 36.6% ）



※評価なし6項目を除く。

□基本目標ごとの評価と今後の施策展開 「施策の目標」及び「重要業績評価指標（KPI）」の実績値及び評価

●基本目標1 日本で、世界で、稼ぐ産業の創出（全13項目）

評価可能な指標11項目のうち、基準値を上回った指標は8項目（72.7%）であり、概ね施策の成果が表れたと考えられる。

この分野は多くの項目において新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、現在は回復の傾向にあり、多くの項目においてコロナ禍前の基準値を上回る結果となっている。

「観光消費単価」については基準値を下回っているが、「観光交流客数」は増加となっている。これは消費単価の低い日帰り観光客の増加によるものであり、今後は高付加価値なコンテンツ造成や滞在型の観光施策を講じていく必要があると考える。

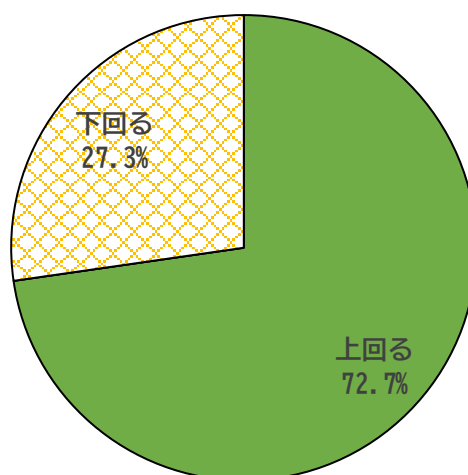
「新規創業者数」、「中心市街地の新規雇用数の増加」については、産業支援センターにおける創業希望者への相談受付から、セミナー開催や事業計画の作成などの実践的なフォローへと誘導し、補助金の交付により支援するという一連の流れが奏功し、目標値を上回る成果に繋がった。

「森林整備面積（年間）」については、これまで基準値を下回る実績となっていたが、令和5年度から市独自で森林環境譲与税を財源とした「再造林奨励金事業」を開始したことから、森林所有者や林業経営体の負担軽減により再造林が促進され、基準値を上回る結果となった。

引き続き、成果が表れている項目は継続して取組を進め、改善が必要な指標については、ターゲットを意識しつつ各制度の周知・情報発信を進めるとともに、実行可能な施策を見極め、取り組むことで更なる成果につなげていく。

○基準値と令和5年度実績の比較（基本目標1）

上回る	8 項目	（ 72.7% ）
変動なし	0 項目	（ 0.0% ）
下回る	3 項目	（ 27.3% ）



※評価なし2項目を除く。

主な施策	指標	H30 基準値	R6 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	基準値との 比較	評価	達成率 評価	年度別実績値の推移 折れ線グラフ：基準値から目標値への推移 棒グラフ：年度別実績値
	市内総生産額（年間）	3,674億円 (H28)	3,681億円 (R4)	3,808億円 (H30)	3,952億円 (R1)	※ 3,620億円 (R2)	評価待ち	—	—	—	
	地域経済成長率	△ 4.1%	前年度 数値を 上回る	3.9%	3.8%	※ △ 8.1%	評価待ち	—	—	—	
1ーア 高速交通 網の拠点 で稼ぐ	新規企業立地件数 (H27～累計)	9件	24件	※ 10件	※ 11件	※ 11件	※ 15件	6件	↑	C	
1ーイ まちの魅 力を活か して、観 光で稼ぐ	観光交流客数 (年間)	189.7万人	300.0万人	※ 151.1万人	※ 190.1万人	※ 255.4万人	※ 265.7万人	76.0万人	↑	C	
	宿泊者数（年間）	227,503人	240,000人	※ 165,454人	※ 182,900人	※ 215,033人	※ 258,115人	30,612人	↑	S	
	観光消費単価 (一人当たり)	6,141円	6,600円	※ 5,812円	※ 5,350円	※ 5,633円	※ 5,553円	△ 588円	↓	D	
1ーウ 新たな付 加価値に よる農林 業で稼ぐ	「実質化された 人・農地プラン」 に位置付けられた 担い手の数 (年度末現在)	0件	240件	37件	365件	353件	348件	348件	↑	S	
	認定農業者への農 地集積率（累計）	37.5%	44.0%	38.9%	38.6%	38.6%	37.9%	0.4%	↑	C	
	認定農業者数 (年度末現在)	384人	384人	387人	371人	349人	344人	△ 40人	↓	D	
	森林整備面積 (年間)	205.2ha	320.0ha	※ 202.7ha	※ 191.9ha	※ 170.9ha	※ 241.1ha	35.9ha	↑	C	
1ーエ 地域産業 の競争力 を高めて 稼ぐ	新規創業者数 (累計)	48人	100人	85人	112人	135人	159人	111人	↑	S	
	中心市街地の1日 当たり通行量 (調査実施日現在)	7,792人	8,000人	※ 6,190人	※ 6,173人	※ 6,384人	※ 6,436人	△ 1,356人	↓	D	
	中心市街地の新規 雇用者数の増加 (開業・新規雇用者数)	78人	140人	114人	174人	180人	246人	168人	↑	S	
※新型コロナウイルス感染症による影響あり											

●基本目標2 島田市とつながり、住み、好きになる（全10項目）

全10項目のうち、基準値を上回った指標は7項目（70.0%）である。特に、基本目標2の施策の目標である「計画期間中の30代の社会移動人数（暦年）」、「計画期間中の社会移動平均人数（暦年）」、「島田市が好きな市民の割合」の全てが基準値を上回っており、概ね施策の成果が表れたと考えられる。

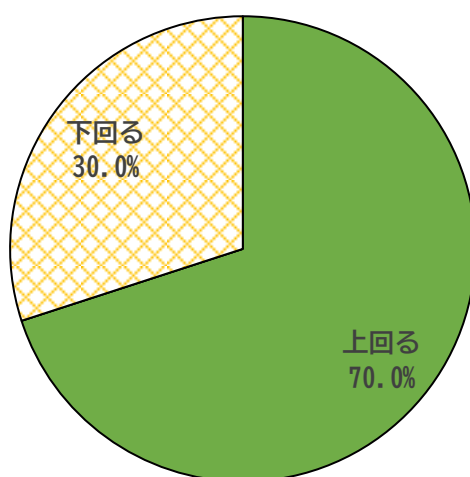
「移住・定住の促進」については、「移住ポータルサイトの閲覧時間」の目標値を上回る結果に伴い、「移住・定住相談窓口を利用した県外からの移住件数」が基準値を上回り、着実に成果を上げることができたと考えられる。

「シティプロモーションによるまちの魅力創造」については、「市公式ホームページの総ビュー数」は、島田市LINE公式アカウントのメッセージ配信から、市公式ホームページへ積極的に誘導したことにより、目標値を大きく上回る結果となった。一方、「都市の魅力度」及び「島田市緑茶化計画の取組について知っている」と答えた市民の割合」は基準値を下回ったため、市外・県外への発信力強化のほか、市内、市内の機運醸成を図っていく必要があると考える。

今後も、明確なターゲットを定め、適切な情報発信をすることで、「移住・定住の促進」、「シティプロモーションによるまち魅力創造」による転入超過の継続、地域への愛着醸成を図っていく。

○基準値に対する令和5年度実績の評価（基本目標2）

上回る	7 項目	（ 70.0% ）
変動なし	0 項目	（ 0.0% ）
下回る	3 項目	（ 30.0% ）



主な施策	指標	H30 基準値	R6 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	基準値との 比較	評価	達成率 評価	年度別実績値の推移 折れ線グラフ：基準値から目標値への推移 棒グラフ：年度別実績値
計画期間中の30代の 社会移動人数（暦年）		51.2人 H26～H30 平均	100人 R2～R6平均	74人	58人	85人	94人	42.8人	↑	B	
計画期間中の社会移動 平均人数（暦年）		△ 59.8人 H26～H30 平均	転入超過 R2～R6平均	69.0人	△ 20.5人	68.3人	63.0人	122.8人	↑	S	
島田市が好きな市民の割合 (島田市総合計画市民意識調査 (20歳以上、R1のみ18歳以上))		67.8% H28～H30 平均	基準値を 上回る R2～R6平均	69.4%	71.5%	73.9%	73.5%	5.7%	↑	S	
2-ア 移住・定住の促進	移住・定住相談窓口を利用した県外からの移住件数（累計）	0人 (参考) H27～R1累計 171人	250人 R2～R6累計	51人	117人	151人	217人	217人	↑	B	
	移住ポータルサイトの閲覧時間（1日平均）	74分	90分	149分	135分	167分	172分	98分	↑	S	
2-イ シティプロモーションによるまちの魅力創造	都市の魅力度 (地域ブランド調査)	405位	355位	576位	620位	480位	491位	86位	↓	D	
	市公式ホームページの総ビュー数（年間）	313万件	350万件	※ 665万件	※ 711万件	※ 622万件	※ 530万件	217万件	↑	S	
	島田市緑茶化計画の取組について知っていると考えた市民の割合 (「島田市総合計画市民意識調査」より)	29.4% (R2実績値)	40.0%	29.4%	16.2%	11.4%	11.5%	△ 17.9%	↓	D	
2-ウ 地域を支える人材育成、多様な主体との連携	包括連携協定による高校生との連携事業数（累計）	2件	10件	3件	16件	22件	30件	28件	↑	S	
	「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」のうち、島田市事業分KPI達成度	65.4%	100.0%	※ 12.1%	※ 31.9%	※ 61.0%	※ 57.0%	△ 8.4%	↓	D	
※新型コロナウイルス感染症による影響あり											

●基本目標3 希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんやかに子育てする

(全10項目)

全10項目のうち、基準値を上回った指標は5項目（50.0%）であり、各施策について一定の成果が表れたと考えられる。

基本目標3の施策の目標である「合計特殊出生率」は、実績値が基準値を下回ったが、全国値の1.33及び静岡県値の1.39を上回っている。また、「年少人口比率」については、年少人口が減少し、高齢人口が増加している状況が続いているが、0～9歳の社会移動人数は10年連続で転入超過、30代の社会移動人数は10年間転入超過傾向となっていることから、島田市は「子育てしやすいまち」として着実に認識されていると言える。

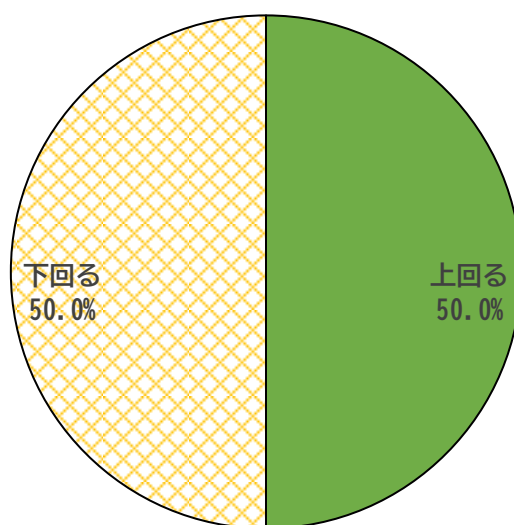
「結婚支援ネットワーク加入団体の支援により成婚した組数」については、島田市結婚支援ネットワーク加入団体において、参加者のニーズに沿ったイベントの開催に加え、その後の相談・支援等を行ったことで、目標値を大幅に上回った。

「赤ちゃん訪問の訪問率」、「担当保健師がいることを知っている保護者の割合」については、目標値以上となっている。担当保健師が、妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援を行う「島田市版ネウボラ」の取組を今後も実施してくとともに、「しまいく+（ぷらす）」をこれまで以上に活用し、担当保健師と子育て世帯の関係づくりを進めていく。

今後も、妊娠・出産に係る切れ目のない支援、子どもが地域と関わることで自分・地域・周りの人々を大切に思う心を育成する教育、性別を問わず活躍できる職場・組織づくりの啓発等に積極的に取り組むことで、更に子育てしやすいまちづくりを推進していく。

○基準値に対する令和5年度実績の評価（基本目標3）

上回る	5 項目	(50.0%)
変動なし	0 項目	(0.0%)
下回る	5 項目	(50.0%)



主な施策	指標	H30 基準値	R6 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	基準値との 比較	評価	達成率 評価	年度別実績値の推移 折れ線グラフ：基準値から目標値への推移 棒グラフ：年度別実績値
合計特殊出生率 (県において期間で算出、 5年に1回公表)		1.51	1.60	—	—	—	1.41	-0.1	↓	D	
年少人口比率 (市算出)		12.6%	12.1%	12.4%	12.3%	12.1%	11.8%	△ 0.8%	↓	D	
3ーア 出逢い、 恋して、 結婚する	結婚支援ネット ワーク加入団体の 支援により成婚し た組数（累計）	0組	15組	※ 5組	※ 13組	※ 25組	※ 28組	28組	↑	S	
3ーイ 妊娠、出 産する	赤ちゃん訪問（乳 児家庭全戸訪問） の訪問率（年間）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	↑	S	
3ーウ 子どもを まんなか に子育て する	担当保健師がいる ことを知っている 保護者の割合 (7か月児、1歳6か月児 を持つ保護者) (R2実績値)	74.0%	80.0%	74.0%	93.8%	94.6%	95.6%	21.6%	↑	S	
	保育所等の利用申 込者数に対する待 機児童数の割合 (翌年4月1日現在)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	↓	D	
	放課後児童クラブ の利用申込者数に 対する待機児童数 の割合 (翌年4月1日現在)	8.8%	0.0%	9.6%	5.5%	7.9%	3.0%	△ 5.8%	↑	C	
	職場で男女が平等 であると思う市民 の割合 (「島田市総合計画市民意 識調査」より)	23.2%	30.0%	22.5%	23.2%	19.1%	22.5%	△ 0.7%	↓	D	
3ーエ 豊かな心 をもった 子どもを 育成する	自分にはよいとこ ろがあると答えた 児童の割合 (市内小中学校が行う学校 評価データ)	84.9%	基準値を 上回る	85.0%	81.6%	80.8%	81.5%	△ 3.4%	↓	D	
	自分にはよいとこ ろがあると答えた 生徒の割合 (市内小中学校が行う学校 評価データ)	70.3%	基準値を 上回る	75.1%	71.1%	72.5%	74.3%	4.0%	↑	S	
※新型コロナウイルス感染症による影響あり											

●基本目標4 水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり（全14項目）

評価可能な指標10項目のうち、基準値を上回った指標は6項目（60.0%）であり、各施策について一定の成果が表れたと考えられる。

「島田市の住みごこちが良いと感じる市民の割合」、「地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業所数」及び「新たな手段による公共交通の運行を開始した地区の数」においては、目標値を超える結果となった。

この分野で基準値を下回った項目は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けているものが多い。しかしながら、回復の傾向にあり、コロナ禍においても事業を継続してきたことで、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の回復に繋げることができたと考える。

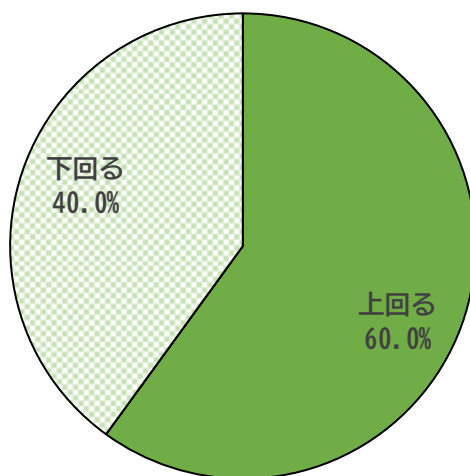
「コンパクト・プラス・ネットワークの推進が重要だと思う市民の割合」については、立地適正化計画の策定後も認知度が低い状況である。将来のまちづくりの担い手となる小・中学生を中心に出前講座を開講し、立地適正化計画について市民への周知を図っていく。

また、第2次生涯学習推進大綱や第4次島田市健康増進計画、第4次島田市食育推進計画等に基づき、関係機関との連携、協力体制を構築し、健康の保持増進、高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加促進に努めるとともに、包括的なサービス提供のための取組も継続して実施していく。

地域公共交通については、移動に係る利便性を確保するために多様な主体、手段による持続可能な公共交通網の構築を検討していく。

○基準値に対する令和5年度実績の評価（基本目標3）

上回る	6 項目	（ 60.0% ）
変動なし	0 項目	（ 0.0% ）
下回る	4 項目	（ 40.0% ）



※評価なし4項目を除く。

主な施策	指標	H30 基準値	R6 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	基準値との 比較	評価	達成率 評価	年度別実績値の推移 折れ線グラフ：基準値から目標値への推移 棒グラフ：年度別実績値
地域カストック指標		2.46	2.50	—	—	—	—	—	—	—	
島田市の住みごこちがよい と感じる市民の割合 （「島田市総合計画市民意識調査」）		84.2% H26～H30 平均	基準値を 上回る R2～R6平均	85.5%	86.1%	87.1%	86.7%	2.5%	↑	S	
4－ア 持続可能なまちづくりの推進	コンパクト・プラス・ネットワークの推進が重要だと思いう市民の割合 （「島田市総合計画市民意識調査」より）	54.2% (R2実績値)	70.0%	54.2%	51.8%	54.0%	47.2%	△ 7.0%	↓	D	
	中心市街地の居住人口の増加 （居住人口増）	△ 69人	40人	△ 39人	9人	△ 89人	△ 67人	2人	↑	C	
4－イ 誰もが暮らしやすいまちづくりの推進	お達者度（男性） （県において算出）	18.50年 (H28)	19.18年 (R4)	18.32年 (H30)	18.67年 (R1)	18.84年 (R2)	評価待ち	—	—	—	
	お達者度（女性） （県において算出）	21.60年 (H28)	22.53年 (R4)	21.66年 (H30)	21.82年 (R1)	22.07年 (R2)	評価待ち	—	—	—	
	健康マイレージに取り組んだ人数 （年間）	1,300人	1,700人	※ 997人	※ 836人	※ 910人	※ 1,000人	△ 300人	↓	D	
4－ウ 地域包括ケアの推進	しまとれ実施箇所数（年度毎累計）	59か所	135か所	※ 86か所	※ 91か所	※ 97か所	※ 102か所	43か所	↑	C	
	居場所づくり事業実施箇所数（年度毎累計）	63か所	95か所	※ 68か所	※ 73か所	※ 73か所	※ 70か所	7か所	↑	C	
	地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業所数（年度毎累計）	133事業所	200事業所	153事業所	190事業所	193事業所	236事業所	103事業所	↑	S	
	在宅看取りの率 （在宅死亡者の率） （年間）	37.1%	38.0%	36.7%	41.8%	43.9%	評価待ち	—	—	—	
4－エ 効率的で、持続性の高い公共交通の構築	地域公共交通利用者数（年間）	251,472人	260,000人	※ 186,081人	※ 162,037人	※ 171,814人	※ 176,645人	△ 74,827人	↓	D	
	新たな手段による公共交通の運行を開始した地区の数（年度末現在）	0地区	8地区	2地区	5地区	6地区	8地区	8地区	↑	S	
	地域公共交通運行平均収支率（年度末現在）	16.2%	20.0%	※ 10.1%	※ 9.7%	※ 10.0%	※ 10.4%	△ 5.8%	↓	D	

※新型コロナウイルス感染症による影響あり

【評価】

●基準値とR5年度実績値との比較

上回るもの：26項目（58.2%） 変動がないもの：0項目（0.0%） 下回るもの：15項目（30.2%） 評価なし：6項目（11.6%）

●前年度（R4）実績値とR5年度実績値との比較

上回るもの：25項目（51.2%） 変動がないもの：1項目（2.3%） 下回るもの：14項目（32.6%） 評価なし：7項目（13.9%）

令和5年度 島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価・検証結果（外部評価）

1 外部評価・検証結果について

第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の着実な推進を図るため、総合戦略に掲げた事業の令和5年度の実施状況について、施策の目標及び重要業績評価指標（KPI）により外部評価・検証を行った。

（1）外部評価・検証の実施日

令和6年8月6日（火） 島田市デジタル田園都市構想市民会議

令和6年8月19日（月） 島田市デジタル田園都市構想金融機関会議

（2）評価・検証結果

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた多くの項目が、コロナ禍前の基準値を上回る状態まで回復し、全体として6割を超える項目において基準値を上回ることができたことから、各施策は一定の成果を上げ、総合戦略の目標に向けて着実に推進していると評価する。

2 外部評価・検証における主な意見

会 議 名	意 見
島田市デジタル田園都市構想市民会議	「観光交流客数」は増えてきているが、「観光消費単価」は落ち込んでいる。観光消費を増やすためには、行政や関係団体だけではなく、地域の事業者とも一緒に考えていかなければならない。
	子供たちの自己肯定感を高めるためには、子供の良さを見つけ、褒め、伝えるだけでなく、自分たちの身に付けた力を生かし、活躍できる場があるということも大事である。
島田市デジタル田園都市構想金融機関会議	人口減少を食い止めるためには、働く場所を確保することも必要であり、新東名島田金谷インターチェンジ周辺の工業用地は注目している。今後も企業誘致できる場所は必要である。
	「中心市街地の1日当たりの通行量」について、空き店舗対策を実施することで、今後もまちなかのにぎわい創出を目指すところだが、現実には厳しいと感じている。
	出会いの場をつくることは重要であり、島田市結婚支援ネットワークはよい取組である。成婚した組数が28組あったことは、とても大きい。

3 外部評価・検証結果を踏まえた今後の対応

外部評価・検証の中で出された意見や指摘事項を庁内で共有し、島田市デジタル田園都市構想総合戦略における各施策の取組を推進、展開していく。

【資料】

令和5年度

第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

進捗管理表

島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価区分について

1 評価・検証について

令和5年度実績等の最新値に基づく総合戦略に掲げる施策の目標の推移や、具体的な施策ごとの重要業績評価指標（KPI）の達成状況、令和5年度の実績や達成率に対する今後の要因等を取りまとめたものである。

2 評価方法について

目標値への達成度を考慮し、以下により評価を行っている。

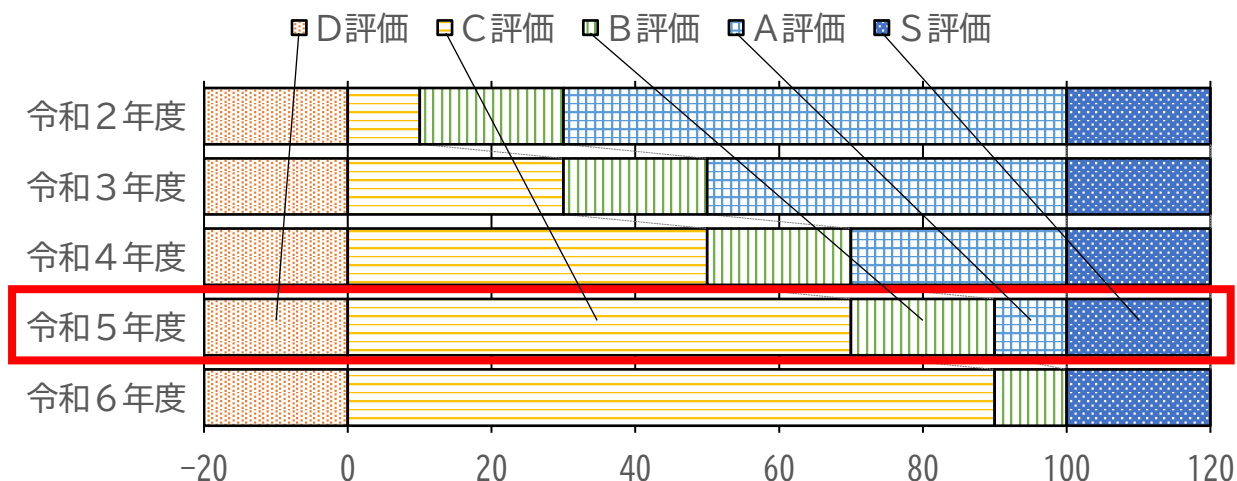
総合戦略に掲げられている基本目標ごとの目標値（9項目）及び具体的な施策ごとの重要業績評価指標（KPI）（38項目）について、令和5年度実績値から達成率を算出し、S・A・B・C・Dの5段階で評価を行った。

統計調査未実施等により、評価書策定時点で達成率算出が困難な項目は「評価なし」とした。

《評価区分》

区分	評価基準
S 【100%≦達成率】	目標値を達成しているもの
A 【90%≦達成率<100%】	目標値達成が予定より早く見込まれるもの
B 【70%≦達成率<90%】	目標値達成が予定どおり見込まれるもの
C 【0%≦達成率<70%】	目標値達成に努力が必要なもの
D 【達成率<0%】	実績値が基準値未満であり、目標値達成に努力が必要なもの
評価なし	実績値公表待ち、当該年度調査なし等により達成率の算出ができないもの

3 年度別評価と達成率の関係



S評価	100%以上
A評価	S評価からB評価の間
B評価	令和2年度 理想値※（20%）±10%の範囲
	令和3年度 理想値（40%）±10%の範囲
	令和4年度 理想値（60%）±10%の範囲
	<u>令和5年度 理想値（80%）±10%の範囲</u>
	令和6年度 理想値（100%）－10%の範囲
C評価	B評価からD評価の間
D評価	0%未満

※理想値：各年度において目標とする値

令和5年度 第2期総合戦略
施策の目標及び重要業績評価指標（K P I）達成状況及び評価について

1 総合戦略の進捗状況による評価

(1) 「施策の目標」の評価

施策の目標【9項目】	S	A	B	C	D	評価なし	備考
	3	0	1	0	2	3	
日本で、世界で、稼ぐ産業の創出	0	0	0	0	0	2	
・ 市内総生産額（年間）						●	R3実績に基づく評価 R6.10月頃公表（県）のため、評価待ち。 新型コロナの影響あり
・ 地域経済成長率						●	
島田市とつながり、住み、好きになる	2	0	1	0	0	0	
・ 計画期間中の30代の社会移動人数（暦年）			●				
・ 計画期間中の社会移動平均人数（暦年）	●						
・ 島田市が好きな市民の割合	●						
希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんやかに子育てする	0	0	0	0	2	0	
・ 合計特殊出生率					●		
・ 年少人口比率（市算出）					●		
水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり	1	0	0	0	0	1	
・ 地域カストック指標						●	R5公表なし
・ 島田市の住みごこちがよいと感じる市民の割合	●						

【評価】

- ・ 評価を行った6項目のうち、3項目は目標値を超えるS評価となった。
- ・ 一方、D評価となった「合計特殊出生率」及び「年少人口比率」は、将来目標人口8万人を達成するための重要な要因であるため、今後も注視する必要がある。

(2) 「重要業績評価指標（K P I）」の評価

重要業績評価指標（K P I） 【38項目】	S	A	B	C	D	評価なし	備考
	13	0	1	8	13	3	
日本で、世界で、稼ぐ産業の創出	4	0	0	4	3	0	
・ 新規企業立地件数				●			新型コロナ影響あり
・ 観光交流客数（年間）				●			新型コロナ影響あり
・ 宿泊者数（年間）	●						新型コロナ影響あり
・ 観光消費単価（一人当たり）					●		新型コロナ影響あり
・ 「実質化された人・農地プラン」に位置付けられた担い手の数（累計）	●						
・ 認定農業者への農地集積率（累計）				●			
・ 認定農業者数（年度末現在）					●		
・ 森林間伐面積（年間）				●			新型コロナ影響あり
・ 新規創業者数（累計）	●						
・ 中心市街地の1日当たり通行量（調査実施日現在）					●		新型コロナ影響あり

・ 中心市街地の新規雇用者数の増加(開業・新規雇用者数)	●						
島田市とつながり、住み、好きになる	3	0	1	0	3	0	
・ 移住・定住相談窓口を利用した県外からの移住件数(累計)			●				
・ 移住ポータルサイトの閲覧時間(1日平均)	●						
・ 都市の魅力度(地域ブランド調査)					●		
・ 市公式ホームページの総ビュー数(年間)	●						新型コロナ影響あり
・ 島田市緑茶化計画の取組について知っていると答えた市民の割合					●		
・ 包括連携協定による高校生との連携事業数(累計)	●						
・ 「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」のうち、島田市事業分KPI達成度					●		新型コロナ影響あり
希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする	4	0	0	1	3	0	
・ 結婚支援ネットワーク加入団体の支援により成婚した組数(累計)	●						
・ 赤ちゃん訪問(乳児家庭全戸訪問)の訪問率(年間)	●						
・ 担当保健師がいることを知っている保護者の割合	●						
・ 保育所等の利用申込者数に対する待機児童数の割合(4月1日現在)					●		
・ 放課後児童クラブの利用申込者数に対する待機児童数の割合(4月1日現在)				●			
・ 職場で男女が平等であると思う市民の割合					●		
・ 自分にはよいところがあると答えた児童の割合					●		
・ 自分にはよいところがあると答えた生徒の割合	●						
水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり	2	0	0	3	4	3	
・ コンパクト・プラス・ネットワークの推進が重要だと思う市民の割合					●		
・ 中心市街地の居住人口の増加(居住人口増)				●			
・ お達者度(男性)(健康寿命)						●	R4評価終了(県)
・ お達者度(女性)(健康寿命)						●	
・ 健幸マイレージに取り組んだ人数(年間)					●		新型コロナ影響あり
・ しまトレ実施箇所数(年度毎累計)				●			新型コロナ影響あり
・ 居場所づくり事業実施箇所数(年度毎累計)				●			新型コロナ影響あり
・ 地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業所数(年度毎累計)	●						
・ 在宅看取りの率(在宅死亡者の率)(年間)						●	評価待ち(県)
・ 地域公共交通利用者数(年間)					●		新型コロナ影響あり
・ 新たな手段による公共交通の運行を開始した地区の数(年度末現在)	●						
・ 地域公共交通運行平均収支率(年度末現在)					●		新型コロナ影響あり

【評価】

- ・ KPI 全38項目中、S評価からB評価までの合計は、14項目(36.8%)を占めている。また、成果が出始めているC評価まで含めると、22項目(57.9%)となり、各施策、取組の成果が着実に現れていると考えられる。
- ・ 一方、基準値を下回るD評価は13項目(全体の34.2%)となったが、新型コロナウイルス感染症の影響があったものが多い。

【基本目標１】 日本で、世界で、稼ぐ産業の創出

施策の目標	基準値 (H30)	目標値 (R6)	期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
				理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価
市内総生産額（年間） （出典：しずおかけんの地域経済計算）	3, 674. 04億円 H28	3, 680. 95億円 R4		3, 675. 42億円	3, 808. 23億円 <目標値以上>	S	3, 676. 80億円	3, 951. 73億円 <目標値以上>	S
地域経済成長率 （出典：しずおかけんの地域経済計算）	▲4. 1%	前年度 数値を 上回る		前年度 数値を 上回る	3. 9% <目標値以上>	S	前年度 数値を 上回る	3. 8% <98. 8%>	A

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価	
（ア）高速交通網の拠点で稼ぐ										
・ 富士山静岡空港周辺のまちづくり ・ 新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺のまちづくり ・ 地域資源を生かした企業誘致 ・ 交通結節点を生かすための周辺基盤整備	新規企業立地件数 (H27～累計)	9件	24件		12件	10件 <6. 7%>	C	15件	11件 <13. 3%>	C

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)			理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価
（イ） まちの魅力を生かして、観光で稼ぐ										
・ S Lを生かした観光誘客の促進 ・ 川根温泉及び田代の郷温泉を核とした観光の推進 ・ ニューツーリズムや歴史・文化資源を活用した新たな観光の推進 ・ 観光資源の有効活用とロケーション活動支援の充実 ・ 富士山静岡空港の海外渡航先からの外国人観光客の誘致 ・ デジタルマーケティング手法を活用した観光戦略プランの推進及び広域観光連携の充実・強化	観光交流客数 (年間)	1, 896, 746人	3, 000, 000人		2, 117, 397人	1, 510, 933人 <基準値以下>	D	2, 338, 048人	1, 901, 389人 <0. 4%>	C
	宿泊者数（年間）	227, 503人	240, 000人		230, 002人	165, 454人 <基準値以下>	D	232, 502人	182, 900人 <基準値以下>	D
	観光消費単価 (一人当たり)	6, 141円	6, 600円		6, 233円	5, 812円 <基準値以下> R1	D	6, 325円	7, 195円 <目標値以上> R2	S

R4年度末			R5年度末			基本目標の評価	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価		
3,678.19億円	3,619.58億円 <基準値以下>	D	3,679.57億円	未公表	—		戦略 推進課
前年度 数値を 上回る	▲8.1% <基準値以下>	D	前年度 数値を 上回る	未公表	—		

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
18件	11件 <13.3%>	C	21件	15件 <40.0%>	C	- 企業や仲介企業からの相談に対し市内の遊休地の情報提供を行い企業誘致活動を実施した。 - 東名島田金谷10周辺地区における工業用地の開発と基盤整備を継続実施した。 - 結果として、令和5年度は4件の企業立地が実現した。	令和5年度は当初6件の立地を予定していたが、そのうち2件は企業側の事業スケジュールの変更や交付要件への適合状況により次年度に申請を先送りすることとなった。	市内企業の定着と市内への新たな設備投資の情報収集のため、各関係課と連携し市内企業や市外の本社訪問を実施するとともに、県と連携した企業訪問も継続する。申請を先送りした企業との連絡も密にし、企業の要望などに可能な限り対応して立地に繋げられるよう努める。新東名島田金谷10周辺では、今後も土地開発公社を活用した工業用地開発を進め、企業立地に繋げていく。	内陸 フロン ティア 推進課

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
2,558,698人	2,554,345人 <59.6%>	B	2,779,349人	2,657,363人 <68.9%>	C	- 令和5年度は、インバウンド誘客を図ることを目的に観光庁の補助事業を活用したツアー造成事業に取り組んでいる。 - 国内客の誘客については、大井川流域観光情報サイト「旅する大井川」を活用したプロモーションを実施することで、認知獲得に努めている。	観光交流客は前年度と比較し4%増加している。主な要因は、令和2年11月に開館したKADODE OOIIGAWAが右肩上がりで来場者を伸ばし、令和5年度は過去最高の96万人の来場者を記録したことが増加の主な要因である。宿泊者数については、コロナ禍の影響により落ち込んでいたが、徐々に回復の兆しが見受けられる。	国内ではインバウンド需要が高まりをみせており、今後は、インバウンドの誘客を図ることが目標となる。このため、昨年度達成したツアー等をきっかけに、海外の旅行代理店等に接触する機会を増やし、訪日時における立寄り先として認知を広げるとともに、インバウンドの誘客へと繋げる。特に親日家で日本への訪問回数が複数あり、未だ訪れたことの無い地を旅したがる台湾人をメインターゲットとし、島田市観光協会と連携したプロモーション活動を令和6年度実施する。	観光課
235,001人	215,033人 <基準値以下>	D	237,501人	258,115人 <目標値以上>	S	- 令和5年度も引き続き宿泊施設及び宿泊定員数の増加を図るため、農家民宿の開設について支援し1施設7名の定員数の増を図った。 - 観光情報サイトを活用したプロモーションを実践することで誘客を図った。 - 併せて、観光協会と連携し観光商談会等、観光事業者へのプロモーションを実施することで送客に向けた活動を行っている。	令和5年度は富士山静岡空港を利用するインバウンドの活動が活発となり、その結果として市内への宿泊数が増加している。なお、コロナ前はインバウンドは静岡市内の宿泊施設を利用する人が多かったが、これも観光協会と連携して観光事業者へのプロモーション活動を実施した成果であると考察する。	課題であった宿泊施設については、農家民宿の増加により徐々に宿泊定員数は増加を続けている。今後は農家民宿の開設を支援することにより、宿泊定員数の増加を図り宿泊者数の増加を引き続き目指す。	
6,416円	5,633円 <基準値以下>	D	6,508円	5,553円 <基準値以下>	D	令和5年度も引き続きSNSを活用した広告配信を実践しつつ、観光情報サイトの記事についてブラッシュアップを図り誘客へ向けた取り組みを実践した。	観光消費額は、目標値を大きく下回る結果であったが、これは、消費単価の高い宿泊者よりも日帰り観光客の増加が要因である。今後は、高付加価値なコンテンツを造成し、日帰観光客の消費を促す必要がある。	今後は誘客に向けたプロモーションを実践することにより、観光交流客数の増加を目指す。また、消費単価が高い宿泊者については、インバウンド誘客を推進することにより、消費単価の増加を図る。	

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)	理想値 ＜20%＞		実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40%＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
（ウ）新たな付加価値による農林業で稼ぐ										
・茶の生産基盤の強化と消費拡大 ・6次産業化とブランド化の推進 ・地域農業の振興と地産地消の推進 ・多様な担い手の確保・育成 ・生産性の高い林業の実現	「実質化された人・農地プラン」に位置付けられた担い手の数 （累計）	0件	240件		48件	37件 ＜15.4%＞	B	96件	365件 ＜目標値以上＞	S
	認定農業者への農地集積率 （累計）	37.5%	44.0%		38.8%	38.9% ＜21.5%＞	B	40.1%	38.6% ＜16.9%＞	C
	認定農業者数 （年度末現在）	384人	384人		384人	387人 ＜目標値以上＞	S	384人	371人 ＜基準値以下＞	D
	森林整備面積 （年間）	205.2ha	320.0ha		228.2ha	202.7ha ＜基準値以下＞	D	251.1ha	191.9ha ＜基準値以下＞	D

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)	理想値 ＜20%＞		実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40%＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
（エ）地域産業の競争力を高めて稼ぐ										
・地域産業の振興 ・商業・サービス産業の活性化 ・過ごしたくなるまちなづくり ・企業とのマッチング促進	新規創業者数 （累計）	48人 H27～H30累計	100人 R2～R6累計		58人	85人 ＜71.2%＞	A	69人	112人 ＜目標値以上＞	S
	中心市街地の１日当たり通行量	7,792人	8,000人		7,834人	6,190人 ＜基準値以下＞	D	7,875人	6,173人 ＜基準値以下＞	D
	中心市街地の新規雇用者数の増加 （開業・新規雇用者数増）	78人 H26～H30累計	140人 R2～R6累計		90人	114人 ＜58.1%＞	A	103人	174人 ＜目標値以上＞	S

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
144件	353件 <目標値以上>	S	192件	348件 <目標値以上>	S	・農業経営基盤強化促進法が改正されたことに伴い、令和5年度は地域計画の策定に向けて市内の農業者にアンケート調査を実施した。	当初は人・農地プランの作成について、話し合いできる地区を探しながら徐々に作成していく方針であったが、国・県の強い要望があったため令和3年度中に全域策定完了した。	担い手は高齢化してきており、徐々に減少していくことが予想されるため、法人や新規就農者の確保育成を図っていく。	農業 振興課
41.4%	38.6% <16.9%>	C	42.7%	37.9% <6.1%>	C	・担い手（認定農業者）への農地集積面積 令和5年度末 1,032ha	農地の集積について地域での話し合いは進んでおらず、それぞれの担い手が耕作する面積を徐々に増やしている。	令和3年度に市内を6地区に区割りし「実質化された人・農地プラン」を作成した。 今後、地元での話し合いを進め、担い手への農地集積を図っていく。	
384人	349人 <基準値以下>	D	384人	344人 <基準値以下>	D	・市による認定更新対象者75人のうち、50人を再認定し、他市町で農業経営を行っている者を国・県が7人認定したが、18人が認定を更新しなかった。 ・新規認定者は市が6人、県が6人だった。	農業者の高齢化や後継者不足に加え、生産資材の価格上昇も経営を圧迫していることから、認定農業者の新規・更新認定数が伸び悩み、離農者も増えてきている。	茶等の単作による生産体制のリスク管理として他の作物との複合経営を推進し、所得の安定を図るとともに、農業後継者の育成として新規就農者の支援を行う必要がある。	
274.1ha	170.9ha <基準値以下>	D	297.0ha	241.13ha <31.3%>	C	・木材価格の低迷により、森林所有者や林業経営体の費用負担が大きいために原因で進んでいなかった皆伐後の再造林に対し、従来の国県の補助とは別に、令和5年度から市独自で森林環境譲与税を財源とした「再造林奨励金事業」を開始した。 ・当制度の活用により、森林所有者や林業経営体の負担軽減が図られ、再造林が促進され、10.97haの森林整備へつながった。	令和4年度達成率より増加した主な理由として下記2点が考えられる。 ①ウッドショックによる木材価格の一時的な上昇が収まり、皆伐へシフトしていた林業経営体の事業が間伐主体に戻ってきたこと ②令和5年度から開始した再造林奨励金事業の利用による	森林環境譲与税及び国県市の様々な補助事業により、森林所有者及び林業経営体を支援することで、森林整備の促進を図っていく。 また、計画的な森林整備を促すために、林業経営体に対し、森林経営計画の策定支援を行っている。	農林 整備課

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
79人	135人 <目標値以上>	S	90人	159人 <目標値以上>	S	・創業希望者向けセミナーを実施し、延べ40人の受講を得た。 ・創業補助金を13人に交付した。 ・産業支援センターにおいて、延べ317人の創業希望者の個別相談に対応した。	産業支援センターにおいて、起業希望者から相談を受け、セミナーの受講や事業計画の作成へと誘導し、補助金交付までの一連の流れにより、24人の新規創業者を輩出することができた。	創業希望者の掘り起こしから、セミナーや個別相談等の支援と併せ、創業者への補助金を効果的に活用するとともに、創業後においても伴走型支援を継続することで、市内産業の活性化へとつなげていく。	商工課
7,917人	6,384人 <基準値以下>	D	7,958人	6,436人 <基準値以下>	D	・おび通りの活用業務を委託し、おび通りを活用しやすい環境を整備した。 ・島田駅前において、イルミネーション事業を実施した。	新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、島田駅周辺を中心に、まちなかの歩行者通行量は減少したが徐々に回復してきている。	中心市街地内の公共空間を活用したイベントの実施や空き店舗対策等を実施することで、今後もまちなかのにぎわい創出を目指す。	
115人	180人 <目標値以上>	S	128人	246人 <目標値以上>	S	・遊休不動産リノベーション応援事業補助金を3人に交付した。 ・創業補助金を13人に交付。内4人は中心市街地での創業。 ・令和5年度に20社が設立・転入した。（課税課照会） ※中心市街地活性化計画の進捗状況の調査結果から引用 ※新規出店1件あたり3人雇用を想定 R5新規出店数26件 計算式：R5新規雇用者数 …3人×26件＝78人	遊休不動産リノベーション応援事業補助金や創業補助金が、事業を始めるきっかけとなり、創業者が増えていくことが考えられる。	中心市街地の空き家が増加傾向にあるため、空き家を活用していきたい。遊休不動産リノベーション応援事業補助金や創業補助金のニーズはあるため、創業者へ利用の促進を図っていく。	

【基本目標2】 島田市に住み、好きになる

施策の目標	基準値 (H30)	目標値 (R6)	期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
				理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価
計画期間中の30代の社会移動人数（暦年）	51.2人 H26～H30平均	100.0人		61.0人	74.0人 <46.7%>	A	70.7人	▲16.0人 <基準値以下>	D
計画期間中の社会移動平均人数（暦年）	▲59.8人 H26～H30平均	転入超過 R2～R6平均		転入超過	転入超過 (+69人) <目標値以上>	S	転入超過	転出超過 (▲110人) <基準値以下>	D
島田市が好きな市民の割合 (島田市総合計画市民意識調査（20歳以上）)	67.8% H28～H30平均	基準値を上回る R2～R6平均		基準値を上回る	69.4% <目標値以上>	S	基準値を上回る	73.3% <目標値以上>	S

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20％	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40％	実績値 ＜達成率＞	評価	
（ア）移住・定住の促進										
・定住化の促進 ・関係人口の創出・拡大	移住・定住相談窓口を利用した市外からの移住人数 （累計）	0人 （参考） H27～R1累計 171人	250人 R2～R6累計		50人	51人 ＜20.4％＞	B	100人	117人 ＜46.8％＞	B
	移住ポータルサイトの閲覧時間 （1日平均）	74分	90分		77分	149分 ＜目標値以上＞	S	80分	353分 ＜目標値以上＞	S

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)			理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価
（イ）シティプロモーションによるまちの魅力創造										
・シティプロモーションの推進	都市の魅力度 （地域ブランド調査）	405位	355位		395位	576位 ＜基準値以下＞	D	385位	620位 ＜基準値以下＞	D
	市公式ホームページの総 ビュー数 （年間）	3, 133, 292件	3, 500, 000件		3, 206, 634件	6, 645, 947件 ＜目標値以上＞	S	3, 279, 975件	7, 112, 593件 ＜目標値以上＞	S
	島田市緑茶化計画の取組につ いて知っていると考えた市民 の割合 （「島田市総合計画市民意識 調査」より）	29. 4% R2	40. 0%	R3年度 R2実績値を 基準値とし た	－	29. 4% ＜基準値＞	－	32. 1%	16. 2% ＜基準値以下＞	D

R4年度末			R5年度末			基本目標の評価	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価		
80.5人	85人 <69.3%>	B	90.2人	94人 <87.7%>	B	【社会移動】 ・R2は74人の転入超過、R3は110人の転出超過、R4は246人の転入超過、R5は47人の転入超過で、計画期間中の平均では63.0人の転入超過となり、目標を上回る結果となった。 ・年齢別では、計画期間中の4年間で、0～9歳が255人、30～39歳が94人の転入超過となっており、子育て世帯が増加していることが推測できる。 一方で、15～19歳が203人、20～24歳が293人の転出超過となっており、就学や就職による転出が多いと推測される。 【島田市が好きな市民の割合】 ・R2は69.4%、R3は73.7%、R4は77.9%、R5は72.3%で、4年間の平均は73.5%となり、目標値を上回る結果となった。 ・「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点としたときの幸福度の平均は6.9であった。基準年(H30)は6.6であったことから0.3の増であったが、前年度は過去最高の7.0であったため前年度比は0.1の減となった。 ・引き続き、「島田市緑茶化計画」を旗印とした戦略的なシティプロモーションを展開し、市民生活の中に浸透させることで、市民の「島田愛」醸成を図っていく。	戦略推進課
転入超過	転入超過 (+68.3人) <目標値以上>	S	転入超過	転入超過 (+63.0人) <目標値以上>	S		
基準値を上回る	73.9% <目標値以上>	S	基準値を上回る	73.5% <目標値以上>	S		

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
150人	151人 <60.4%>	B	200人	217人 <86.8%>	B	移住者数の増加を目指し、下記の取組みを行った。 ・相談対応件数:124件 ・移住相談イベントやセミナーの開催:13回 ・3泊4日移住体験ツアーの実施:1回	これまでの移住相談イベントやセミナーの実施、相談対応などにより、移住検討者が実際に島田に移住してきたと考えられる。	課題である島田市の認知度を向上させるため、シティプロモーション活動を行うとともに、移住相談イベントやセミナーなどの取り組みを継続して行っていく。	広報プロモーション課／観光課
84分	167分 <目標値以上>	S	87分	172分 <目標値以上>	S	広告配信、移住者インタビューのブログ定期更新を行い、ページビュー数が125,905となった。	移住希望者のニーズに合わせた情報発信に取り組むとともに、サイト訪問者の傾向などサイト分析結果をサイトに反映させたことにより、アクセス数や閲覧時間の増加に繋がったと考えられる。	移住者インタビュー記事の追加や、コンテンツの充実など、移住者のニーズに合わせたサイトに育てるとともに、訪問者数を増加させるためにSNS等を活用した情報発信を図る。	

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
375位	480位 <基準値以下>	D	365位	491位 <基準値以下>	D	・大阪や神戸などの県外や、しまだ大井川マラソン会場において島田市緑茶化計画を掲げたプロモーション活動を行った。 ・観光客をターゲットとした商品造成やSNS等を活用した情報発信を行った。	市外者向けのプロモーション活動を的確なターゲットに向けて行うことができなかった。また、SNSをうまく活用することができず、プロモーションとしての情報発信が効果的でなかった。	情報発信においては、ターゲットを定め、SNS等を活用した適切な発信方法を展開していく。 さらに、他課との連携は市外・県外への発信力強化に効果的であると考え、庁内におけるシティプロモーションの意識醸成を図っていく。	広報プロモーション課
3,353,317件	6,224,767件 <目標値以上>	S	3,426,658件	5,296,262件 <目標値以上>	S	・島田市LINE公式アカウントを中心とした情報発信を行うとともに、Youtube等による動画説明等、情報発信を行った。 ・市民にとって見やすい、分かりやすいウェブサイトになるよう、課長級や広報委員向けの対面研修や課長補佐級・係長級のオンライン研修を行った。	島田市LINE公式アカウントのメッセージ配信から市HPへ積極的に誘導したことで、アクセス数増加の要因となった。	LINEでの情報発信のみを行い、情報元となるホームページの記事制作が疎かにならないよう、各所属に対してページ制作（着地点整備）の必要性を伝え、ウェブサイトの在り方や適切なページ制作等に関する研修を行い、市民にとって分かりやすい、見やすいウェブサイトを目指す。	
34.7%	11.4% <基準値以下>	D	37.4%	11.5% <基準値以下>	D	・市民に島田市緑茶化計画の取組を知ってもらえるよう、和菓子パルやしまだ大井川マラソン会場などで緑茶化計画事業において開発したお茶やお菓子を販売した。 ・市内中学校において、「島田市緑茶化計画」についての説明やコンテンツ制作に携わってもらうなど島田市緑茶化計画の取組を周知した。	島田市緑茶化計画の取組がまだ不足しているため、市民における認知度が上がらない状況にある。	市のみならず、市民や市内事業者等も交えた活動を推進することで、市内の機運醸成を図るとともに、取組規模を拡大させ、事業の認知を拡大させる。	

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)	理想値 <20%>		実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価	
(ウ) 地域を支える人材育成、多様な主体との連携										
・多様な主体と協働・連携した 地域を支える人材育成	包括連携協定による高校生主体の連携事業数 (累計)	2件	10件 R2～R6累計		4件	3件 <12. 5%>	B	5件	16件 <目標値以上>	S
	「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」のうち島田市事業分K P I 達成度	65. 4%	100. 0%		72. 3%	12. 1% <基準値以下>	D	79. 2%	31. 9% <基準値以下>	D

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
7件	22件 <目標値以上>	S	8件	30件 <目標値以上>	S	令和5年度に高校生が主体となって実施した8事業（ワークショップや講座への参加は除く） ・高校生ラジオ ・島田樟誠高校MIRAIプロジェクト ・島田高校夢応援プロジェクト ・探求ミーティング2023 ・簗祭りYouTube配信 ・はたちの集いYouTube配信 ・六合子どもチャレンジクラブ講師 ・声の議会だより作成	総合的な学習（探究）の時間では、生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていくことが進められており、高校から地域や地元企業とのつながりを求める声が多く挙がり、対応したことが要因と考えられる。	引き続き、連携事業を続けることで、高校生が地域との関わりを持ち、身近に存在するモノの価値に気付くとともにシンビックブライドを醸成することで、地元に住み続ける、将来地元に戻って生活したいという気持ちを持ってもらうことにつなげる。 探究の授業を各学校で展開しているが、各々企業の紹介や連携の依頼があるため、既存のプラットフォーム等を活用した商工会議所、商工会等を含めた連携体制を構築する必要がある。	市民 協働課 ／戦略 推進課
86.2%	61.0% <基準値以下>	D	93.1%	57% <基準値以下>	D	・SLやきかんしゃトーマス号などの運行により、高い集客力を持つ大井川鐵道を関連付け、周辺における食・体験・自然・癒しなどの地域資源を活用したニューツーリズムを広域連携で推進した。 ・メディアを活用した宣伝、首都圏・中京圏で開催される大型イベントへの出展などのプロモーション、大井川鐵道沿線における活性化イベントの開催などを通じ、大井川流域全体の回遊促進を図った。 イベント参加者数：45,000人	大井川流域への誘客に向け、積極的にプロモーションは行ったものの、大井川鐵道が全線で開通していないことから、来訪客が減少している。特に、トーマスフェアは千頭会場も計画していたが、新金谷会場のみに規模を縮小して開催したことが要因である。	ゆるキャン△関連のSNS告知などでは、高いビュー数やエンゲージメントを記録した。 加えて、イベント出展においてもオリジナルグッズの物販を告知すると、それを目的とした来場者が多く訪れ、実際に現地に来訪していると話す方もいたことから、今後もトーマスフェア等、認知度の高い大井川鐵道に加え、アウトドアやゆるキャン△についても継続してプロモーションしていくことで、更なる誘客につなげていく。	

【基本目標3】 希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする

施策の目標	基準値 (H30)	目標値 (R6)	期間中の 変更履歴	R2年度末			R3年度末		
				理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価
合計特殊出生率 (県において期間で算出) (5年に1回公表)	1.51	1.60		1.53	未公表	—	1.55	未公表	—
年少人口比率 (市算出)	12.6%	12.1%		12.5%	12.4 <基準値以下>	D	12.4%	12.3% <基準値以下>	D

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の 変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
（ア）出逢い、恋して、結婚する										
・ 出逢いの場づくりの支援	島田市結婚支援ネットワーク 加入団体の支援により成婚した組数 （累計）	－	15組		3組	5組 ＜33. 3＞	A	6組	13組 ＜86. 7＞	A

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の 変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
(イ) 妊娠、出産する										
・ 妊娠・出産に関する正しい知識 の普及と相談体制の確保 ・ 不妊等に悩む方への支援 ・ 妊娠・出産に向けての支援	赤ちゃん訪問（乳児家庭全戸 訪問）の訪問率 （年間）	100. 0%	100. 0%		100. 0%	100. 0% ＜目標値以上＞	S	100. 0%	100. 0% ＜目標値以上＞	S

R4年度末			R5年度末			基本目標の評価	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価		
1.56	未公表	—	1.58	1.41 <基準値以下>	D	【合計特殊出生率】 ・基準値1.50（H27調査）に対し、実績値は1.41（R2調査）と低下したが、全国1.33、静岡県1.39を上回った。 【年少人口比率】 ・基準年と比較し、年少人口が1,138人減少し、高齢人口は597人増加した。 ・また、基準年と比較し、出生数が150人減少し、死亡数が173人増加した。 ・0～9歳の社会移動は例年転入超過であるものの、継続した出生数の減少と高齢者人口の増加が年少人口比率の減少に大きく影響を与えていると考えられる。 総人口 基準年：98,757人、R4年12月：96,496人（基準年比▲2,261人）、 R5年12月：95,698人（基準年比▲3,059人、前年比▲798人） 年少人口 基準年：12,463人、R4年12月：11,687人（基準年比▲776人）、 R5年12月：11,325人（基準年比▲1,138人、前年比▲362人） 生産年齢人口 基準年：56,159人、R4年12月：54,121人（基準年比▲2,038人）、 R5年12月：53,641人（基準年比▲2,518人、前年比▲480人） 高齢人口 基準年：30,135人、R4年12月：30,688人（基準年比+553人）、 R5年12月：30,732人（基準年比+601人、前年比+44人） 平均年齢 基準年：48.0歳、R4年12月：48.7歳（基準年比+0.7歳）、 R5年12月：49.0人（基準年比+1.0歳、前年比+0.3歳） 出生数 基準年：664人、R4年：553人（基準年比▲111人）、 R5年：514人（基準年比▲150人、前年比▲39人） 死亡数 基準年：1,168人、R4年：1,320人（基準年比+152人）、 R5年：1,341人（基準年比+173人、前年比+21人）	戦略推進課
12.3%	12.1% <基準値以下>	D	12.2%	11.8% <基準値以下>	D		

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
9組	25組 <目標値以上>	S	12組	28組 <目標値以上>	S	・各団体では、婚活イベントや、相談、マッチング支援等を行った。 ・市では、各団体のイベントの広報支援や実施のサポートを行うとともに、各団体の情報交換の場を設けた。 ・また、静岡県によるふじのくに出会いサポートセンターの広報に協力し、利用登録の促進に努めた。	令和2年度からの累計内訳 R2：5組 R3：8組 R4：12組 R5：6組 結婚支援団体の適切な働きかけが成果につながった。	令和5年度中にネットワークの中核団体が活動を終了したことから、今後の活動などについて検討する必要がある。 ふじのくに出会いサポートセンターへの登録を推進していく。	子育て応援課

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
100.0%	100.0% <目標値以上>	S	100.0%	100.0% <目標値以上>	S	・島田市版ネウボラにより、妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援を実施した。 ・概ね4か月以内の訪問により子育て孤立化を防ぎ、支援が必要な家庭を適切なサービスに結び付けた。	島田市版ネウボラにより、妊娠期から各家庭に担当保健師がいるため、継続した支援のひとつとして赤ちゃん訪問が実施されていた。	引き続き島田市版ネウボラにより妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援を行う。 出生後自身の体調や慣れない育児で大変な時期に、保健師が訪問することで不安を取り除き、安心して育児ができるように赤ちゃん訪問の実施率100%を目標とする。	健康づくり課

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
		基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価
(ウ) 子どもをまんやかに子育てする										
・妊娠・出産・子育てに対する負担感の軽減 ・子育て支援体制の充実 ・子どもの健康の確保及び増進 ・地域・社会全体で子育てを支える機運の醸成	担当保健師がいることを知っている保護者の割合 （7か月児、1歳6か月児を持つ保護者）	74.0% R2	80.0%	R3年度 R2実績値を 基準値とした	—	74.0% <基準値>	—	75.5%	93.8% <目標値以上>	S
	保育所等の利用申込者数に対する待機児童数の割合 （翌年4月1日現在）	0.0%	0.0%		0.0%	0.0% <目標値以上>	S	0.0%	0.0% <目標値以上>	S
	放課後児童クラブの利用申込者数に対する待機児童数の割合 （翌年4月1日現在）	8.8%	0.0%		7.0%	9.6% <基準値以下>	D	5.3%	5.5% <37.5%>	B
	職場で男女が平等であると思う市民の割合 （「島田市総合計画市民意識調査」より）	23.2%	30.0%		24.6%	22.5% <基準値以下>	D	25.9%	23.2% <基準値以下>	D

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
		基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20％＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40％＞	実績値 ＜達成率＞	評価
（エ）豊かな心をもった子どもを育成する										
・個に焦点を当てた授業の推進 ・多様な体験活動の充実 ・子どもたちの成長を支える連携した教育の推進 ・安心・安全な学校づくり	自分にはよいところがあると答えた児童の割合 （市内小中学校が行う学校評価データ）	84. 9% H30～R1平均	基準値を上回る R2～R6平均		基準値を上回る	85. 0% ＜目標値以上＞	S	基準値を上回る	81. 6% ＜基準値以下＞	D
	自分にはよいところがあると答えた生徒の割合 （市内小中学校が行う学校評価データ）	70. 3% H30～R1平均	基準値を上回る R2～R6平均		基準値を上回る	75. 1% ＜目標値以上＞	S	基準値を上回る	71. 1% ＜目標値以上＞	S

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
77.0%	94.6% <目標値以上>	S	78.5%	95.6% <目標値以上>	S	- 母子健康手帳交付時に可能な限り担当保健師との顔合わせを行っている。 - 母子手帳交付時に顔合わせができなかった妊婦に対して、担当保健師によるメッセージをしまいく＋（ぶらす）で送付し周知を図った。 - 健診時にも担当保健師が面談を行う体制をとっているが、保護者からの時間の希望等で面談が実施できない場合には、健診の面談以外の場でも担当保健師が直接声をかけることを積極的に行っている。	母子健康手帳交付時の顔合わせや健診等で担当保健師が対応することで認知度は上昇し高い達成率となったと考えられる。 また、担当保健師を指名しての相談や担当家族からの相談も増えており、担当保健師が相談窓口として認知され、相談しやすい体制が構築されてきていることも要因と考える。	引き続き、担当保健師が相談窓口であることの周知を行っていく。 担当保健師からお子さんの成長に合わせたメッセージを送付するなど、しまいく＋をこれまで以上に活用し、より相談しやすい関係性の構築に取り組んでいく。 また、担当保健師により対応が大きく異なるよう、資質向上のための研修やマニュアルの作成等を行っていく。	健康づくり課
0.0%	0.0% <目標値以上>	S	0.0%	0.38% <基準値以下>	D	- 各保育所と地域の申込状況を共有し、受入れの拡充要請及びきめ細やかな入園調整を行っているが、増加する保育需要に対応しきれず、令和6年度は待機児童が8名発生した。 - 待機児童を0にできるように調整を行う。	金谷地区は人口減に伴い施設にも空きが出ているが、旧島田、六合地区は子育て世代の割合が多く施設で受け入れ切れていない。 需要と供給のバランスに地域差が生じている。 今後市内全体の人口が減少して行く中、どのように保育需要と供給のバランスを保つかが課題となっている。	待機児童を0にできるように調整を行う。	保育支援課
3.5%	7.9% <10.2%>	C	1.8%	3.0% <65.9%>	C	1年生から6年生の申込者うち、3年生までの受入を達成するため、公設民営クラブの拡張（定員増加）や民設民営クラブの新設支援を実施した。	小学校区ごとの受入のため、希望者が多い学区で4年生以上の待機児童が発生した。 総数では確保できているが、学区、年度毎での利用率の変化に傾向が少ないため、推測は非常に困難になり、待機児童が発生した。	利用見込の推移からピークを見極めながら、ハードの新規整備ではなく、既存のストック利用や、ソフト的対応にて目標達成をはかる。	子育て応援課
27.3%	19.1% <基準値以下>	D	28.6%	22.5% <基準値以下>	D	- ワークライフバランスや職場における男女共同参画の考え方を広めるため、市内企業を対象とした講座（「男性の育児推進で働きやすい職場へ」～少子化時代の人材戦略～）を開催した。 - 男女共同参画の考え方を広めるための情報紙「パレット」について各戸配布をやめ、新たに島田市男女共同参画情報サイトをまだばれっとを作成した。	職場における男女平等の意識は、ジェンダー平等など多様性を重視する社会の流れもあり、必要性は認識されてきている。 そのため、不平等だと感じる方の割合も減りにくいと考えられる。	職場の男女平等意識につなげるため、島田市男女共同参画情報サイトをまだばれっとを活用し、市民全体への男女共同参画についての意識啓発を行う。 併せて、市内事業所等に向けて性別などによる固定観念を取り除き改善につながるようなセミナーを開催したりするなどして、啓発に取り組んでいく。	市民協働課

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
基準値を上回る	80.8% <基準値以下>	D	基準値を上回る	81.5% <基準値以下>	D	- 新型コロナウイルスが5類に移行したことで、体験活動、地域の方との関わりを通して学ぶ機会等を徐々に増やしていくことができた。 - また、関係の方々や連携して、個に寄り添った生徒指導やきめ細やかな就学支援を行ったことにより、達成率80%以上を維持することができた。	コロナ禍において、人やものとの関わりが少ない中で育ってきた児童にとって、経験不足から他との関わりがうまくいかず、自己肯定感の低下の一因となっていると考えられる。 新型コロナウイルスが5類に移行したことで、体験活動、地域の方との関わりを通して学ぶ機会等を効果的に設定していけば、自己肯定感が上昇することにも期待ができる。	新型コロナウイルスが5類に移行したことで、体験活動、地域の方との関わりを通して探究的に学ぶ機会を増やし、より児童が主体となる学習を推進する。 体験や交流の機会を効果的に設定し、児童が自分・地域・周りの人を大切に思う心を育成する。 また、関係の方々や連携して、個に寄り添った生徒指導やきめ細やかな就学支援を継続する。	学校教育課
基準値を上回る	72.5% <目標値以上>	S	基準値を上回る	74.3% <目標値以上>	S	- 新型コロナウイルスが5類に移行したことで、総合的な学習を中心に、地域連携型の探究的な学習の推進を図ることができた。 - 生徒が地域の人やものとのつながることで、自他を大切に思う心の育成にもつながった。 - また、関係の方々や連携して、個に寄り添った生徒指導やきめ細やかな就学支援を行うことができた。	新型コロナウイルスが5類に移行したことで、体験活動、地域の方との関わりを通して学ぶ機会等を徐々に増やしたことで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携や、きめ細かな就学支援が継続できたことにより、基準値を上回ることに繋がったと考えられる。	少年育成教室「しまだガンバ」については、少子化により児童数が減少するなか、事業を支援していただく方の確保を含めた運営方法について随時検証し、限られた財源や人材での運営方法や事業展開を構築していく。 参加者数が減少している中学生対象の寺子屋事業については、学校との協議のうえ実施内容を見直し、小学6年生を対象とした学習会に変更し夏休み中に実施することとした。今後も状況に応じた改善を図っていく。	社会教育課
K P Iはないが、具体的な施策に取組が記載されているもの						社会教育課では、学校以外の場において様々な体験の場を設けることで、児童生徒の自己肯定感の高揚を図っている。 地域学校協働本部事業は、学校と地域をつなぐコーディネーターである地域学校協働活動推進員を全小・中学校に配置し、地域ぐるみで子供たちの学びや成長を支える活動を実施した。 初倉地区の小学生を対象にした初倉放課後子供教室フレンズクラブ事業を実施した。また「しまだはつくら寺子屋」では初倉地区の小・中学生を対象に家庭等における学習習慣が身につけていない子供たちが、地域の教育力を活用して、放課後等における学習を支援した。 次代を担う子供たちが、集団活動を通して心身ともに健やかにたくましく成長するよう、野外活動を中心とした少年育成教室「しまだガンバ」を実施した。	少年育成教室「しまだガンバ！」では、他校児童との交流や異年齢児童との集団活動等の野外活動を通して、感性と創造性のある少年の育成に努めており、今年度はコロナ禍で見合わせていたキャンプも再開した。 アンケートの回答等によれば、参加児童の感想も概ね良好であり、指標目標値の向上につながる満足感や達成感を得られたものと考えられる。 放課後子供教室やしまだはつくら寺子屋等の事業については、地域、学校が協働し、子供達の居場所づくりや地域とのつながりの促進等、一定の効果を挙げることができた。 しかしながら、中学生対象の寺子屋事業については、参加者が減少している傾向にあり、指標に掲げる成果への影響も懸念されることから、状況を見据えた改善が必要と考える。		

【基本目標４】 水と緑に囲まれた健康長寿の暮らしやすいまちづくり

施策の目標	基準値 (H30)	目標値 (R6)	期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
				理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価
地域カストック指標	2.46 R1	2.50		2.47	未公表	－	2.48	未公表	－
島田市の住みごちがよいと感じる市民の割合 (島田市総合計画市民意識調査)	84.2% H26～H30平均	基準値を上回る R2～R6平均		基準値を上回る	85.5% <目標値以上>	S	基準値を上回る	86.8% <目標値以上>	S

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)			理想値 ＜20％＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40％＞	実績値 ＜達成率＞	評価
（ア）持続可能なまちづくりの推進										
・「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりの推進 ・「地域拠点の形成」の推進 ・まちなか暮らしの促進 ・過ごしたくなるまちなかづくり	コンパクト・プラス・ネットワークの推進が重要だと思う市民の割合 （「島田市総合計画市民意識調査」より）	54. 2% R2	70. 0%	R3年度 R2実績値を基準値とした	－	54. 2% ＜基準値＞	－	58. 2%	51. 8% ＜基準値以下＞	D
	中心市街地の居住人口の増加 （居住人口増）	▲69人 H26～H30累計	+40人 R2～R6累計		▲47人	▲39人 ＜27. 5%＞	B	▲25人	9人 ＜71. 6%＞	A

R4年度末			R5年度末			基本目標の評価	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価		
2.48	未公表	—	2.49	未公表	—	【島田市の住みごこちがよいと感じる市民の割合】 ・R2は85.5%、R3は86.7%、R4は88.8%、R5は85.5%で、4年間の平均では86.7%となり、目標値を上回る結果となった。 ・R5の内訳は「住みよい」が25.6%、「まあ住みよい」が59.9%であった。「住みよい」は基準年度（H30）と比べ1.5%増加したものの、前年度比では1.8%減少した。「まあ住みよい」は基準年度（H30）と比べ1.2%減少、前年度比では1.5%減少した。 ・一方、「やや住みにくい」、「住みにくい」は、基準年度（H30）には12.9%、前年度は9.7%と減少していたが、令和5年度は10.8%と基準年度（H30）からは減少したが、前年度比では増加した。	戦略推進課
基準値を上回る	87.1% <目標値以上>	S	基準値を上回る	86.7% <目標値以上>	S		

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
62.1%	54.0% <基準値以下>	D	66.1%	47.2% <基準値以下>	D	- 市内中学校における授業支援においてコンパクト・プラス・ネットワークについて周知（第二中学校・六合中学校にて実施） - インターンに対するコンパクト・プラス・ネットワークの趣旨説明	令和4年度の実績値から減少している。本指標に関係する立地適正化計画が令和4年度に公表され、「コンパクト・プラス・ネットワーク」についての情報発信をしているが、市民の認知度が低い。	引き続き市民や職員に向け立地適正化計画に関する周知を行い、認知度を高めていく。特に、市内学校において授業での支援を行い、次世代におけるコンパクト・プラス・ネットワークに関する理解を深めていく。	都市政策課
▲4人	▲89人 <基準値以下>	D	+18人	▲67人 <基準値以下>	D	- 島田市への出店希望者を探すため、リノベーションまちづくり推進事業の一環として、空き家見学ツアーを2回開催した。また、空き家所有者への了承を得ている物件についての情報発信を実施した。利活用物件は0件で、実績には繋がらなかったものの、さらに多くの物件を見たいという声をいただいた。 - 市外からの誘客を図るため、賑わい創出事業（イルミネーションや中心市街地でのイベントの開催）を実施した。これにより、島田市への一時的な集客は得られたが、居住人口の増加に繋がったとは言えない。	居住人口に関しては、少子高齢化や後継者不足（都市部への流出）等が原因で減少していることが考えられる。商工課では、リノベーションまちづくり推進事業やイベント開催を通じて、島田市の魅力を広域に発信し、市外から島田市へ来たいと思うような環境創りに取り組んでいる。	引き続き、中心市街地の賑わい創出を目的に、リノベーションまちづくり推進事業及び公共空間を利用したイベントの開催を実施していく。	商工課
			KPIはないが、具体的な施策に取組が記載されているもの			- 訓練の実施・検証により、各種計画及びマニュアル等の見直し。 - 出前講座、会議、講演会等にて、防災に関する知識の普及・啓発。 - 指定避難所への防災資機材、衛生用品等の整備（感染症対策における資機材、用品等の整備を含む）。		訓練の実施・検証により、各種計画やマニュアルの見直しを継続する。出前講座、会議、講演会等の開催により、市民や地域の防災に対する意識を向上させ、地域防災力の強化を図る。	危機管理課

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)	理想値 <20%>		実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価	
(イ) 誰もが暮らしやすいまちづくりの推進										
・多文化共生・地域共生のまちづくり ・健康の保持増進と食育の推進 ・高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進 ・スポーツの振興 ・生涯学習の振興	お達者度（男性） （県において算出）	18.50年	19.18年		18.64年	18.32年 <基準値以下>	D	18.77年	18.67年 <25.0%>	C
	お達者度（女性） （県において算出）	21.60年	22.53年		21.79年	21.66年 <6.5%>	C	21.97年	21.82年 <23.7%>	C
	健幸マイレージに取り組んだ人数 （年間）	1,300人	1,700人		1,380人	997人 <基準値以下>	D	1,460人	836人 <基準値以下>	D

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
18. 91年	18. 84年 <50. 0%>	B	19. 04年	未公表	—	・第3次島田市健康増進計画及び第3次島田市食育推進計画に基づき、関係機関と連携して健康の保持増進と生活習慣病の発症予防及び重症化予防等を重点に保健事業を実施した。 【高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進】 ・健康活動・教養活動・地域活動を実施している老人クラブ活動を推進するため、島田市老人クラブ連合会及び単位老人クラブ37団体に対し、補助金を交付した。 ・広報紙などを利用した会員募集の広報支援を実施した。 ・特定健診・保健指導や後期高齢者健診においては、前年度受診率の維持に留まったが、高血圧対策の減塩普及啓発事業を展開することができた。 ・健康状態不明者の訪問等により、ハイリスク者の拾い上げや各所への繋ぎができた。	お達者度の算定を終了したため、実績値、達成率の評価ができない。 【高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進】 老人クラブへの新規参加者が少なく、クラブ数・会員数が減少しており、老人クラブ活動による健康・生きがいづくりと社会参加をする機会が減っている。これが、実績値が目標に達していない一因となっていると思われる。 健診の受診やその他保健事業の展開から、生活習慣病の早期発見・早期改善をすることにより、平均自立期間（お達者度）の延伸に寄与できた。	第4次島田市健康増進計画及び第4次島田市食育推進計画に基づき、関係機関と連携して健康の保持増進と生活習慣病の発症予防及び重症化予防等を推進する。 また、自然に健康になれる環境整備を進めることで、健康に無関心でも健康になれる仕組みづくりを進めていく。 【高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進】 老人クラブへの新規参加者が少なく、クラブ数・会員数が減少しているため、広報紙の配布等により会員増加に努める。 健診の受診をはじめ、糖尿病重症化や高血圧対策等の保健事業、高齢者の一体的実施事業の推進を継続拡大することで、医療費の削減等が期待でき、また若い年代からの習慣付けにより市民全体の健康の維持増進を図りたい。	健康づくり課
									長寿介護課
									国保年金課
22. 16年	22. 07年 <50. 5%>	B	22. 34年	未公開	—	【高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進】 ・パワースタイル教室事業を実施するとともに、指導員を養成し、高齢者相互が支え合う体制づくりを促進した。 ・元氣・脳力アップ塾を開催した。（3期各5回） ・脳の健康度テスト（ファイブコグ）を実施し、認知症予防を推進した。 ・地域ボランティアの協力を得ながら、地域ふれあい事業を実施し、介護予防、認知症予防を推進した。 ●パワースタイル教室472回、参加者276人（延4, 506人）、サポーター176人（延3, 363人） ●シニアトレーニングサポーター養成講座24回23人（延243人） ●元氣・脳力アップ塾15回参加者数：55人（延293人） ●脳の健康度テスト6回 74人 ●脳の健康度テスト結果説明会9回69人 ●地域ふれあい事業52回参加者1, 023人（延11, 769人）、ボランティアスタッフ609人（延6, 642人）	【高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進】 ●パワースタイル教室は受講希望者数に対して定員が少ない状況であったため、令和5年度の途中からおおりの会場を保健センターへ移設し、環境の改善を図った。 ●シニアサポーター養成講座は令和5年度は開催日を木曜日から前期は水曜、後期は土曜日に変更して実施し、前年度の約2倍の受講生を確保した。 ●元氣・能力アップ塾の参加者は積極的な周知により、前年度と比較して増加した。 ●脳の健康度テストは周知方法の工夫により、定期開催の受講人数は前年度と比較し増加した。 ●地域ふれあい事業では、令和5年度はリハビリ専門職の派遣を推進し、活動内容の充実と、事業開催に対するスタッフの負担軽減を図った。	【高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進】 ●パワースタイル教室環境の改善を図るとともに、サポーターの養成も推進し、令和6年度からコース数、定員数を増やして教室を運営する。令和6年度はマシンを更新し、金谷会場を夢づくり会館からかなうえへ移設し、さらなる実施環境の改善を図る。 ●シニアトレーニングサポーター養成講座今後も受講希望者のニーズに合わせて開催日程や内容を検討し、積極的な広報を実施していく。 ●元氣・脳力アップ塾会場の選定方法の見直しを行い参加者の増加を図るほか、新規の参加者へ周知を行えるよう広報の方法や内容を検討していく。 ●脳の健康度テスト周知方法の工夫により、定期開催の受講人数は前年度と比較し増加しているものの、出前講座の依頼が無かったため、出前講座に関しても周知を工夫していく必要がある。 ●地域ふれあい事業スタッフの高齢化等を理由に活動を休止する団体があったり、参加者の高齢化に伴い参加に困難が生じるケースがある。無理なく活動ができるよう訪問等を行い、各団体からの意見を集めながら、市としての支援体制について検討していく。	包括ケア推進課
1, 540人	910人 <基準値以下>	D	1, 620人	1, 000人 <基準値以下>	D	・小学生フットサル大会や、子育て支援センターなど働き盛りの若い世代に積極的に周知した。 ・令和6年2月にデジタル化し、島田市公式ラインのショップカードを使ってポイントの取得から応募までスマホひとつでできるようにした。	周知により参加者は増えている。	今後もマイレージの普及啓発を行い、一人でも多く参加できるようにする。	健康づくり課

K P I はないが、具体的な施策に 取組が記載されているもの	【多文化共生・地域共生のまちづくり】 ・市内介護保険事業所に対し、障害福祉サービス等の事業について周知を行っているが、新規指定希望事業者はいなかった。 ・外国人へ行政サービスを情報発信する際に活用可能な、「やさしい日本語」通信を発行し、庁内向けに公開した。 ・国際交流協会が、外国人のための日本語教室（はじめての日本語クラス全45回、初級クラス全46回。受講料無料）を、4月から3月まで開催した。 ・島田警察署、自治体、国際交流協会、自治体、企業等が連携して、令和5年度に「共生対策連絡協議会」を立ち上げた。関係機関が連携して、多文化共生の課題解決のヒントとなるよう、企業で働く在住外国人と意見交換をした。 ・その他の共催事業として、「外国人のための日本料理教室」（出席者：在住外国人、食生活推進協議会）を実施し、在住外国人と市民との交流機会の場を設定した。	【多文化共生・地域共生のまちづくり】 障害福祉サービス等の事業展開を検討している介護保険事業所がなかった。 コロナ5類移行等の社会情勢により、全国的に外国人居住者（労働者）が増加傾向にある。多言語化、やさしい日本語の普及促進、地域の人々と外国人住民の交流機会の創出、相談対応など、今後も多文化共生社会の実現に向けた施策の重要性がさらに高まるが見込まれる。	【多文化共生・地域共生のまちづくり】 介護サービス担当課と連携しながら指定を希望している事業所に対しての説明等を積極的に行っていく。 「やさしい日本語」を、庁内の研修、市内の出前講座等で普及、啓発するとともに、やさしい日本語版「ごみの出し方」「災害発生時の手続き」を作成する。日本語教育を核とした国際交流協会の多文化共生事業について、市として支援・連携・協力しながら実施する。外国人住民の増加に伴うさまざまな課題について、関係課や関係機関、自治体、企業などと情報共有しながら、対応を検討していく。	福祉課
	【生涯学習の振興】 ・生涯学習推進協議会では生涯学習推進大綱周知活動の一環として、FMしまだへ出演し広報を行うとともに、常葉大学学生とワールドカフェを開催し、生涯学習について意見交換し、猿田常葉大教授から今後の生涯学習のあり方について指導を受けた。 ・指定管理制度を導入し6年目を迎えた楽習センターでは、様々な講座を開講しており、利用者数もコロナ禍前の水準に戻ってきている。 ・フェスタしまだは、令和6年3月2日（土）、3日（日）の2日間にわたり、今年度は夢づくり会館を会場とし開催。ステージ・展示発表や、フリーマーケット等の催しを実施した。 ・金谷宿大学事業は、生涯を通じて教える喜び、学ぶ喜びを味わい、生きがいをもって生きることを実践するため、「教えたい人（教授）」と「学びたい（学生）」の両者に活動の場を提供した。	【生涯学習の振興】 生涯学習推進大綱周知活動は、広報しまだやラジオ出演、フェスタしまだなどで積極的な活動を行うことができた。楽習センターでは、例年開催している講座に加え、指定管理者の企画による短期講座など、市民のニーズに合わせた様々な講座を開講した。フェスタしまだや金谷宿大学成果発表会への参加は、それぞれの講座が1年間の学びの集大成と位置付けている。コロナ禍においては自粛したステージ発表等も実施できたため、多くの団体の成果を発表する機会を設け、成果を確認することができた。受講者の大半を高年齢女性が占めており、男性や若年層の受講動機向上を促す講座の企画開発に取り組むなど、多様な受講生の獲得を目指すことが必要である。一人ひとりが積極的に生涯学習に携わる機会を増やすことが、指標に掲げる成果の向上につながるものと考えられる。	【生涯学習の振興】 第2次生涯学習推進大綱に基づき、課題解決の一助となる学習機会を提供するとともに、機会の提供者（講師など）となる人材を育成することに取り組む必要がある。第2次生涯学習推進大綱の記載内容について、生涯学習推進協議会委員を中心に引き続き検証していく。また、生涯学習推進大綱周知活動は、広報しまだ特集記事掲載などの活動を行っている。生涯学習大会「フェスタしまだ」、金谷宿大学等については、受講生の運営参加内容について負荷軽減を図る。負担にならない程度の協力要請に留め、新たな生涯学習への参加者増を促進したい。楽習センターなどで実施している社会教育講座は、健康を意識して参加している市民も多いことから、健康マイレージの取り組みに係る事業紹介や実践の場として活用を促していくことで、実績値の向上につながることも可能と考える。	文化振興課
	・「市民ひとり1スポーツ」の実現のため、トランポウォークをはじめとするニュースポーツの各種教室等を開催し、参加者は延3,326人であった。	ニュースポーツの各所教室や大会等は、これまで新型コロナウイルス感染症の影響により中止や規模縮小となっていたが、令和4年度からは感染症対策を講じながら実施することで、参加者が回復した。また、教室等については、新たな取組（種目）を導入したことも参加者数の回復の要因となっている。	引き続きニュースポーツの各種教室等を開催し、参加者数の回復を図る。また、スポーツ推進委員会を中心にバラスポーツ「ポッチャ」の普及に努め、障害の有無に関わらず誰もがスポーツを楽しむことのできる機会を提供する。	社会教育課
				スポーツ振興課

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
		基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20%＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40%＞	実績値 ＜達成率＞	評価
(ウ) 地域包括ケアの推進										
・救急医療体制の維持 ・島田市民病院における医療体制の充実と新病院建設事業の推進 ・在宅医療の整備 ・包括的なサービス提供のための取り組み ・地域で支える仕組みづくり	しまとれ実施箇所数 (年度毎累計)	69か所	135か所		82か所	86か所 ＜25. 8%＞	B	95か所	91か所 ＜33. 3%＞	B
	居場所づくり事業実施箇所数 (年度毎累計)	59か所	95か所		66か所	68か所 ＜25. 0%＞	B	73か所	73か所 ＜38. 9%＞	B
	地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業所数 (年度毎累計)	133事業所	200事業所		146事業所	153事業所 ＜29. 9%＞	B	160事業所	190事業所 ＜85. 1%＞	A
	在宅看取りの率 (在宅死亡者の率) (年間)	37. 1%	38. 0%		37. 3%	36. 7% ＜基準値以下＞	D	37. 5%	41. 8% ＜目標値以上＞	S

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
		基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20％＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40％＞	実績値 ＜達成率＞	評価
(エ) 効率的で、持続性の高い公共交通体系の構築										
・公共交通網等の充実 ・民間鉄道による移動手段の確保	地域公共交通利用者数 (年間)	251, 472人	260, 000人		253, 178人	186, 081人 ＜基準値以下＞	D	254, 883人	162, 037人 ＜基準値以下＞	D
	新たな手段による公共交通の 運行を開始した地区の数 (年度末現在)	0地区	8地区		2地区	2地区 ＜25. 0％＞	B	3地区	5地区 ＜62. 5％＞	A
	地域公共交通運行平均収支率 (年度末現在)	16. 2%	20. 0%		17. 0%	10. 1% ＜基準値以下＞	D	17. 7%	9. 7% ＜基準値以下＞	D

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
109か所	97か所 <42.4%>	C	122か所	102か所 <50.0%>	C	・7か所の団体に対して立ち上げ支援を実施し、公認しまトレを誕生させた。 ・公認しまトレの実施箇所数が100か所に達したことを記念し、イベント（「しまトレ」100カ所達成 メモリアルイベント）を開催した。	公認しまトレを立ち上げることができて活動者の減少やモチベーションの低下等様々な原因により公認しまトレを廃止にする団体がある。1年支援等でその団体が抱えている課題を把握し、取り除くように働きかける必要がある。	1年支援のような継続的な支援を実施していき、団体の抱える課題を取り除くことや、モチベーションの向上に努めていく。	包括ケア推進課
81か所	73か所 <38.9%>	C	88か所	70か所 <35.5%>	C	・居場所5団体（新規1、既存4）に対し居場所補助金を交付し、活動・立ち上げの支援を行った。	目標設定時と現在で団体を取り巻く状況が大きく変化しており、計画通り団体数を増やすことができなかった。	既存団体の維持存続が大きな課題になっているため、今後はそちらに注力していきたい。	包括ケア推進課
173事業所	193事業所 <89.6%>	A	187事業所	236事業所 <目標値以上>	S	・市内事業所に事業の趣旨を説明するとともに、協力事業所としての登録を依頼した。 ・高齢者の見守りに必要な知識習得のための講座をYoutubeで配信した。	島田市薬剤師会及び静岡県飲食業衛生同業組合島田支部に協力を依頼し、市内の薬局及び飲食店に対し事業周知及び事業への協力の呼びかけを行った。	市内事業所を個別訪問したり多数の事業所が集まる機会に説明の場を設けたりすることで、協力事業所数の増加に努め、ネットワークを広げていく。 協力事業所連絡会を開催し、高齢者の見守りに必要な知識習得のための研修を実施する。	長寿介護課
37.6%	43.9% <目標値以上>	S	37.8%	未公表	—	島田市地域ケア会議「在宅医療・介護連携部会」：1回 在宅医療推進研修会：1回 市立総合医療センター・地域包括支援センター・介護支援専門員連絡会：3回 訪問看護ステーション連絡会：5回 訪問看護ステーションと看護部合同研修会：2回 訪問看護ステーションと介護支援専門員合同研修会：1回 看看連携「しまだ看護つなぎ隊」研修会：1回 多職種合同研修会：2回 在宅医療・介護連携推進事業市民講演会：1回	【実績値が出せない理由】重要業績指標である「在宅看取り率」は、静岡県人口動態統計による自宅、老人ホーム等での死亡割合としている。 また、データを外委託により加工して作成しているが、委託先としていた事業者が撤退したため、現時点において（R6.5.8現在）、作成できておらず、新たな事業者を探している状況のため、資料提供は、夏～秋頃になるものと推察されます、との回答あり。	在宅医療を担う地域の医師不足が深刻な状況にあるため、往診や訪問診療を行う医師の負担軽減につながる在宅医療環境整備の取組について、在宅医療・介護連携部会で検討していく。 また、退院支援を取り巻く現状と課題について理解を深めるため引き続き病院看護部との連携強化を図っていく。	包括ケア推進課

R4年度末			R5年度末			令和5年度中の取組、成果	達成率に対する要因、考察	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価				
256,589人	171,814人 <基準値以下>	D	258,294人	176,645人 <基準値以下>	D	・金谷地区生活交流拠点「かなうえる」のオープンに合わせ、金谷地区のバス路線を延伸し、バス停留所を追加することにより、利便性を向上させた。 ・各地域で公共交通ワークショップを開催し、公共交通に対する理解の促進に努めた。 ・島田市地域公共交通計画を策定、公表し、令和6年度から令和10年度にかけての公共交通施策について市民に分かりやすく周知した。 目標の一つに「誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供」を掲げ、バス停などの環境整備、探しやすさやわかりやすい情報発信、イベント・講座などを通じた利用促進に取り組んでいく旨を示した。	新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度、令和3年度は利用者数及び収支率が大きく減少した。令和4年度、令和5年度は若干の回復が見られ、今後の需要も回復傾向にあると思われるが、生活様式の変化もあり、コロナ禍以前の水準に戻る可能性は低いと思われる。	運転士不足及び原油高、円安等による燃料費の上昇等により、運行経費の上昇は続く見込まれる。将来にわたり持続可能な公共交通網を構築するため、令和5年度に「島田市地域公共交通計画」を策定した。今後は計画に基づき、各地域内を移動するための公共交通について、地域住民にとってより利用しやすい形態に変えていくため、ワークショップ等を通して住民と一緒に検討を進めていく。	生活安心課
5地区	6地区 <75.0%>	A	6地区	8地区 <目標値以上>	S	・鍋島町内会の協力を得、令和元年度から地域住民による「ゆめバス」を運行している。 ・令和5年度は、鍋島地区のほか、川口、長島、犬間、小川、中平、二俣、白井各地区の高齢者学級への移動需要に対応しており、地域の移動支援に貢献していた。いる。 ・持続的な運営体制の構築に向け、NPOと協力したドライバーの確保に努めている。	運転を担っている方の熱意により成立している。引き続き車両や燃料費等を負担することにより、地域の活動をサポートする。	鍋島町内会に引き続き車両の貸与や必要経費の支援を行い、運行を継続してもらう。 NPO法人と調整を継続し、事業開始の可能性を探る。 公共交通計画策定に向けて市民との意見交換を行う中で、鍋島以外でのJR駅から離れた中山間地域への水平展開の可能性を探る。	
18.5%	10.0% <基準値以下>	D	19.2%	10.4% <基準値以下>	D	・各地域で公共交通ワークショップを開催し、公共交通に対する理解の促進に努めた。 ・島田市地域公共交通計画を策定、公表し、令和6年度から令和10年度にかけての公共交通施策について市民に分かりやすく周知した。 目標の一つに「みんなで支える持続可能な公共交通の実現」を掲げ、運行車両の小型化、運賃の見直し、重複路線の整理などにより収支率向上を図っていく旨を示した。	新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度、令和3年度は利用者数及び収支率が大きく減少した。令和4年度、令和5年度は若干の回復が見られ、今後の需要も回復傾向にあると思われるが、生活様式の変化もあり、コロナ禍以前の水準に戻る可能性は低いと思われる。	令和5年度に策定した「島田市地域公共交通計画」に基づき、利用促進策や収支改善策を実行していく。公共交通網の見直し作業の中では、利便性を損なわないよう配慮しつつ、収支率の向上はもちろん、利用者数の増加を目指していく。	